

廃食油を使った国内初のTSM方式を採用、長距離幹線でテスト運行をスタート

独立タンクで軽油引取税の対象外に 第一貨物が環境対策を積極的に推進

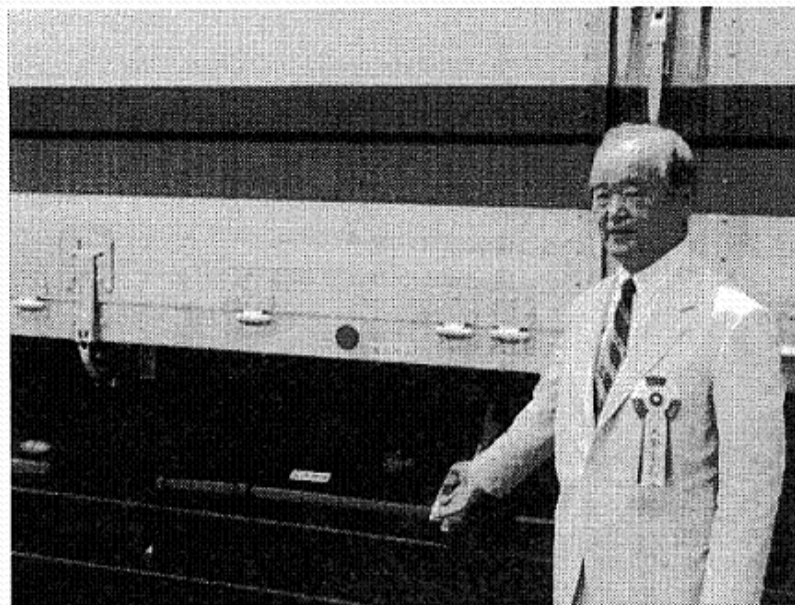
第一貨物(武藤幸規社長)が環境対策を強化している。

大型長距離運行車2台に搭載している2つのタンクのうち、一つに軽油を、他のタンクに不純物を除去した廃食油を給油し、燃料として使用するTSM(Two-tanks Straight vegetable oil Method)を採用したほか、ブリヂストンとのエコタイヤシステムの開発、デジタコや低公害車導入、車両大型化の推進などで2009年のCO₂排出量を2006年度比で

1万3000ト、10・9%も削減するなど大きな成果を上げた。

TSMは米国で開発された技術で、廃食油からグリセリンを除去することなく直接燃料とすることが出来るもの。エンジン始動時と目的地周辺の運行で軽油を使い、その間の輸送については、廃食油を使って走行する。国内では初めての試みだという。

廃食油を使った従来のBDF(Bio Diesel Fuel)方式と比べて前処理が簡単なほか、軽油



Two-tanksシステムを説明する武藤社長



排気ガスはてんぷらの匂い

との併用による暖気効果で寒冷地でも廃食油が固まることがなく利用でき、CO₂の削減に寄与する。さらにタンクを完全に分離することでBDFと同様、軽油引取税が発生しないというメリットもあるという。

第一貨物では2004年から集配車両でBDF2台車5台を山形市内に投入しているが、今年6月から山形・足利間でTSM方式の大型長距離運行車2台でのテスト運行を開始した。

エコタイヤシステムについては2003年からブリヂストンとメンテナンス付リース契約を開始。BSのエコタイヤを使うことで従来比4%の燃費改善を果たした。摩耗したタイヤについてはリトレッド化を組み込むことで資源の有効活用も図っている。

2006年度からはデジタコを1287台の車両に導入し、2009年度のリッター当たり走行キロを06年度比で3・2%(140km)向上させた。低公害車も今年3月現在でCNG車74台、ハイブリッド車51台の計125台(全集配車2200台の5・7%)に拡大したほか、今年になってから三菱自動車の電気自動車「iミープ」も1台導入した。

また、産業廃棄物の排出量削減と再利用にも取り組んでおり、2010年7月から委託再生処理業者を集約し、処理状況の「見える化」を図った。

福島・いわきを含む関東地区14事業所を対象

にスタートさせており、年間約700トの廃パレットが再生利用となる見込み。ストレッチフィルムについても同様に処理業者の集約を進めている。

このほか、グリーン経営の認証取得についても昨年度までに22事業所が取得し、今年度は静岡、浜松の2支店での取得を計画。改正省エネ法に対応した荷主へのデータ提供についても、2010年6月現在で69社にWeb上で提供するなど「環境経営」に力を入れている。



電気自動車iミープも集配用に導入